

スポーツ文化

2024年7月30日発行

発行者 新日本スポーツ連盟宮城県連盟



第59回定期総会を開催 「平和」「温暖化」など、活発に討論！

4月28日（日）、青葉区中央市民センターにて、宮城県連盟の第59回定期総会を開きました。

橋田副理事長の進行で、柿崎理事長から開会あいさつと活動報告を行ないました。始めに、全国連盟が3月に6年ぶりで対面での定期総会を開き、コロナ禍で減少した連盟員が戻ってきていることなどが語られたと報告がありました。

県連盟の活動報告では、9月に開催した陸上競技大会（340名参加）や、2月の寒風の中、400名が参加した新春マラソン大会の報告と総括を行ないました。

また今期の活動として、9月の陸上競技大会、来年1月の新春マラソン大会の開催を目指しつつ、各クラブ・種目の活動の活発化と、連盟員を増やすために気軽に参加できる企画に取り組むことなどを目標としました。

討論では、県連自体の体力が弱り、行事の際には外部スタッフやボランティアに頼らざるを得ない状況にあることから、ウォーキングとトレッキング以外のクラブを強化する必要があるとの指摘があ

りました。

また、地球温暖化との関連で、「炭酸ガスを排出する最大のは、戦争だ」として、「スポーツ団体として唯一『戦争反対』と言えるのは新日本スポーツ連盟。一人ひとりがそれを言うていくのが私たちの使命だ」という、貴重な意見もありました。

総会では、各クラブからの活動報告のあと、今期の役員を選出しました（新役員は4ページ参照）。

全国連盟はじめ多くの都道府県連盟よりお祝いのメッセージを頂きました。御礼申し上げます。

（理事長 柿崎 勝）

各クラブからの活動報告

- あしがる会(ウォーキング)⇒毎月第3(水)、年12回、のべ434名の参加。今年11月の全国交流ウォーク(沖縄)にも参加予定。
- 仙台ウォーキングクラブ⇒月11回実施。毎回約30名参加。おしゃべりしながら楽しく歩くことで「体力がついた」「元気になった」の声も。
- 水泳協議会⇒高齢化などもあり、クラブが2つになり、どちらも休部中のため、協議会は解散。
- 青年クラブ⇒活動休止状態。
- お母さんランナース⇒反核平和マラソンへの参加と広瀬川ジョギングの実施を目指す。
- みやぎトレッキング⇒山行は年11回。ホームページや「山日記(1部200円)」の活用で仲間づくりを目指す。



(写真は一部、加工しています)

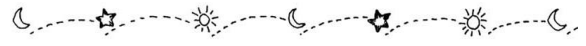
38

6 30

16

38

6 2



2024 5 26

38

9 33

8

6

「多賀城跡・あやめ祭り会場内を散策」 ～ あしがる会 ～



(あやめ祭り会場)

2024年6月19日(水)第201回月例会を快晴の中、一般参加者2名を含む39名で約5kmを歩きました。

多賀城は「多賀城碑」(今年中に重要文化財から「国宝」に指定される見込み)によると創建は西暦724年で今年が創建から1300年の記念すべき年です。そのため今年の「あやめ祭り」は、各種記念行事のため期間を短縮して開催されるため、ボランティアの皆さんが残念がっていました。今回の例会は「あやめ祭り」開催期間中のため、多くのボ

ランティアの皆さんが配置されていたため、「外郭南門」「多賀城碑」「多賀城跡」の説明をお願いしゆっくり歩きました。その後、源氏物語の「光源氏」のモデルの一人と言われて入る「源融」(嵯峨天皇の皇子)が多賀城に赴任していた時、塩釜から多賀城まで通ったであろう「外郭東門跡」まで歩きました。帰りは日陰を探しながら「あやめ園」へ。到着が12時近くだったことから「あやめ園」で解散としました。園内での食事や早々に帰る人等別れましたが、6月とは思えないほど暑い一日でした。

(あしがる会 菊地剛輔)



(多賀城創建1300年記念南門)

スポーツと気候変動

～ランニング～

マラソン大会の暑さ対策に思う

毎年8月の最終日曜日に開催されていた福島県の伊達ももの里マラソン(最大10km)が、今年から4月開催に変更されました。このところの猛暑の影響とのこと。以前、スタート時刻を早めて、気温が高くなる前に競技が終わるような工夫もしてきましたが、それでも最近の“地球沸騰化”とも言われる酷暑では危険との判断だったのでしょうか。

5月の第2日曜日に開催される仙台国際ハーフマラソンは、新緑を駆け抜けることで人気の大会ですが、今年は最高気温が25℃を超える予報での開催でした。会場内ではスタート前から繰り返し、「十分に水分を取りましょう」とのアナウンスが流れていましたが、レース中の暑さは厳しいものでした。

6月の第1日曜の山形「東根さくらんぼマラソ

ン」(最大ハーフ)は、『暑い大会』として有名ですが、約16キロ地点で配布してくれる氷水で冷やしたタオル(以前は冷凍タオル)が名物で、ランナーに大変喜ばれています。

しかし、猛暑の中での大会は、選手のみならずスタッフやボランティア、また沿道で応援してくれる観客にも相当の負担になるでしょう。今後は5月～9月の大会は、日程も含め、開始時刻や給水のあり方など、主催者の工夫や配慮がこれまでに以上に必要になるでしょう。

さて、温暖化防止のため、自分にできることは何だろうか?「スーパーのレジ袋をもらわない」「ダラダラとテレビを見ない」「エアコンの設定温度に気をつける」とか?些細なことですが、まずは少しずつ…。(お母さんランナース 脇本ひろみ)

クラブ紹介 ～ みやぎトレッキングクラブ ～

2020年10月に紅葉の栗駒山で、みやぎトレッキングクラブを結成。会員10名でスタートして4年、現在は16名となりました。

当会は、「安く楽しく安全に」と労山基金と安全山行、自然保護活動などにも取り組む勤労者山岳連盟宮城県連盟（宮城労山）へも加入しています。

会では総会時に行きたい山の希望を募り、初級から中級程度の山行レベルで毎月1回の定例山行を実施しています。季節ごとに自然を楽しめる山行企画を、そして頑張って登った山頂では会旗を掲げての記念撮影が恒例です。

2022年にはホームページを開設し、会の紹介や山行中の楽しい様子などの写真を載せています。

さらに「山日記」として1年間の山行をまとめた写真集を3年間続けて発行しています。会員以外の人たちにも配った結果、「ホームページを見た」と問い合わせが来るようになり、今年に入って3名が入会しました。

会山行は2023年に11回、2024年に7回おこないません。冬の北泉ヶ岳とやくらい山はワカンで。夏はシャクナゲ真っ盛りの安達太良山。秋は色づき始めた西吾妻山と山形神室の美しい山容を眺め、急坂と鎖場連続の“宮城のmatterホルン”オボコンベ山にも挑戦して無事にクリア。思いがけず沢山のキノコを採りました。12月の白鷹山は積雪の中ラッセルを頑張り、山頂小屋では山形労山の方たちに会い囲炉裏を囲んで交流、海鮮鍋をごちそうなるなど、仲間との出会いもありました。

安全のための取り組みでは「山筋ゴーゴー体操講習会」にも積極的に参加しました。全国的にもコロナ以降、山岳事故が増え、特に中高年の登山者の増加に伴い、高齢者に多くにある持病や体力の低下など、心



（7月・月山にて）

身の特徴に対する予防対策が呼びかけられています。当会でも山行での無事故を目指し、日常生活にウォーキングや筋トレなどを意識的に取り入れる事や、山行時には地図読み、装備点検などを学びます。さらに会運営や各行事などへの参加要請にもみんなで分担し協力し合う、ホームページや「山日記」などを活用して仲間を増やそうと提起しております。

「人生100年時代」とはいえ、私たちにとっていかに永く介護されないで過ごすか。これからも積極的健康管理で充実した生活のためにも私たちのクラブが役立っていければと思います。

（みやぎトレッキングクラブ 大友津代）

《 新役員の紹介 》

総会で選ばれた新役員は下記の通りです。

会長	菊地 剛輔	（再）
理事長	柿崎 勝	（再）
副理事長	橋田 明良	（再）
〃	山田 慎一郎	（新）
事務局長	芳野 哲明	（再）
理事	大友 津代	（再）
〃	日下 貞子	（再）
〃	吉田 剛	（再）
事務局	上野 美恵子	（再）
〃	脇本 ひろみ	（再）
会計監査	大友 のり子	（再）
〃	富樫 睦	（新）
顧問	尾崎 吉彦	（再）

<お詫び> 2021年9月以来、約3年ぶりの発行となりました。今後は定期発行に努めます。

「陸上競技大会」中止のお知らせ

冒頭の定期総会の記事にもありました陸上競技大会は、9月23日（月・祝）を予定していましたが、開催準備の遅れと当方のスタッフ不足から、中止することを決定致しました。恒例の行事だっただけに残念ですが、組織の活性化に努め、一刻も早い大会再開を目指していきます。